

第三次守谷市総合計画 基本構想（案）

はじめに

私たちが暮らす日本そして守谷の10年後の未来はどうなっていると思いますか。

守谷で子どもたちが大きくなって大人になって、そのときまちが変わらずにあってほしいこと、変わっていくべきことを考えてみました。

この計画では、守谷で暮らす私たちの未来像を描き、そこに向かっていくために、私たちが行動すること、手を取り合って助け合うことを示します。



文言は、基本計画まで策定後に確定。

1 計画の概要

1 計画の趣旨

守谷市は、平成 24 年 3 月に第二次守谷市総合計画を策定し、「緑きらめき 人が輝く 絆 つなぐまち もりや」の実現を目指し、様々な施策に取り組んできました。

第二次計画策定以降、わが国の人口が減少に転じたことを受け、平成 27 年には、令和 42 年時点での 1 億人の人口確保、人口減少克服と地方創生による活力ある日本社会維持を目指して、全都道府県及び市町村において「地方人口ビジョン」、「地方版総合戦略」が策定されました。

守谷市においても、人口に関する目指すべき将来の方向と将来展望を示した「守谷市人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）」と、これを実現するための計画として具体的な取組をまとめた「守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」を策定し、『「住まう」まち・守谷』を基本方針に掲げ各種施策を展開してきました。

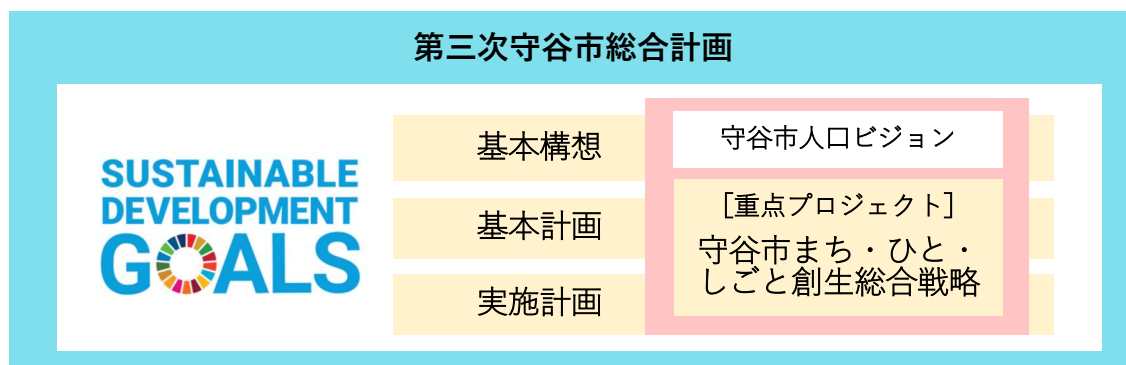
この間の社会情勢の変化等へ対応し私たちが取り組んできたまちづくりを振り返り、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す SDGs の達成を見据えつつ、市民と行政が守谷市の未来の姿を共有して新しい時代をともにつくっていくための指針として、ここに総合戦略を包含した第三次守谷市総合計画（以下「総合計画」という。）を策定しました。

2 計画の構成と期間

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の 3 段階で構成されており、この構成の中に、人口ビジョン及び総合戦略としての重点プロジェクトを盛り込んでいます。

計画期間は、令和 4 年度を初年度とし、令和 13 年度を目標年次とする 10 年間とします。

▼計画の構成



▼計画の期間

	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13
基本構想										
基本計画			前期					後期		
重点プロジェクト			第 2 期					第 3 期		

2 計画策定の背景

守谷市はこんなまちです

地形にめぐまれた安全なまち

守谷市は、利根川、鬼怒川、小貝川に囲まれ台地の中心部に向かって谷津が形成され、まちを取り囲むように斜面林が連なり、豊かな水辺と緑に恵まれたまちです。この元来の地形を生かし台地上に市街地が立地した都市構造により、災害リスクが低く安全なまちです。

都心に近く自然に囲まれたまち

守谷市は、豊かな自然を残しながら、東京都心へ約 30 分でアクセス可能な地理的優位性を有しています。

人口は増加基調、活力あるまち

守谷市の人口は年々増加しており、平成 27 年時点で 64,753 人。ただし高齢化が進んでおり、生産年齢人口は停滞傾向にあります。

国勢調査結果により
更新予定

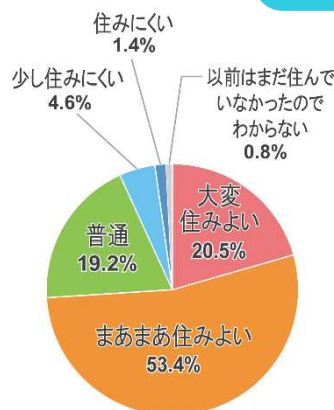


▲守谷市の位置

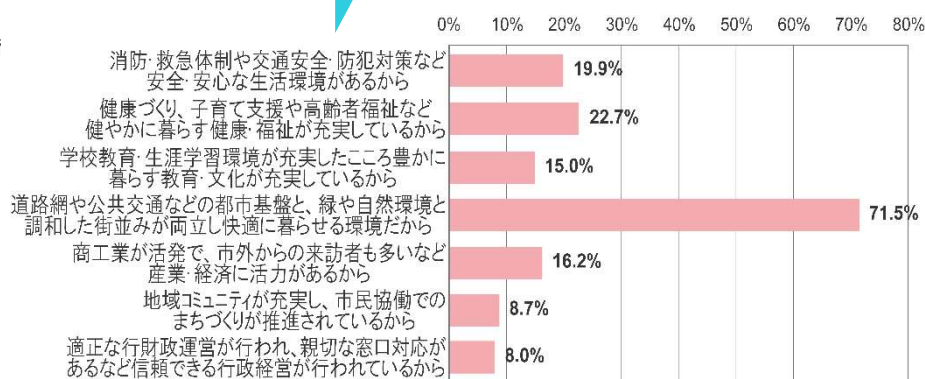
市民アンケートでは約 7 割が「住みよい」と回答しています

「住みよい」と思う理由 第 1 位

「道路網や公共交通などの都市基盤と、緑や自然環境と調和した街並みが両立し快適に暮らせる環境だから」



▲守谷の住み心地



▲守谷市を「住みよい」と思う理由（複数回答）

出典：「施策の満足度、重要度等についての市民アンケート」令和 2 年 10 月～11 月実施
回答者数：1,401 票（回答率 46.7%）

※四捨五入の関係で合計が 100 とならない場合があります

守谷市をとりまく社会環境の変化からみた まちづくりの方向性

人口減少社会においても若い世代に住みたいまちとして選ばれ続ける魅力づくり



住民が主役の自立した地域づくり
による質の高い生活の確保

超スマート社会の到来に向けたデ
ジタル技術活用の推進



さまざまな危機に備えることができ
る安全安心で強靱な社会の実現

3 守谷が目指す未来像

(仮) 守谷がわたしのパワースポット



守谷は、わたしの「幸せに暮らしたい」という希望をかなえてくれます。それは、より良い暮らしのために近所の人たちと助け合っているからでもあります。

近所に子育て世帯がたくさん移り住んできて自治会活動も盛ん。公民館では若々しい高齢者が暮らしに役立つデジタル技術を学ぶ講座やすべての世代の交流の機会も多い。守谷の玄関口である駅前には

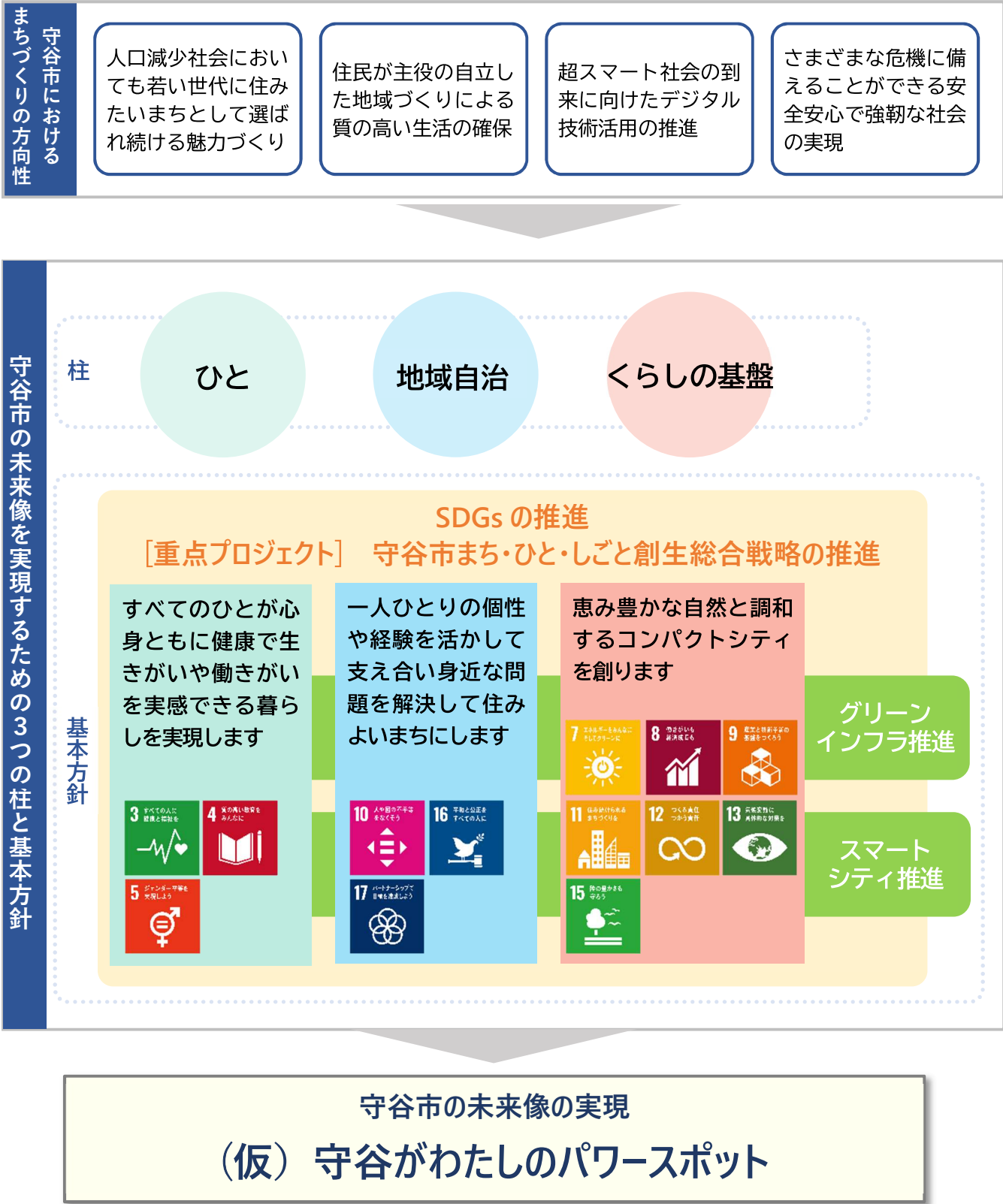
自動運転バスが走り、タッチパネルで行き先と時刻表を確認できる。学校帰りの学生が芝生広場でおしゃべりしてにぎやか。豊かな自然をうまく活用して楽しむし、防災にも役立っている。

守谷は、わたしにとって住みたいまち No.1 としてこの先ずっと、続いていきます。

4 未来像の実現に向けて

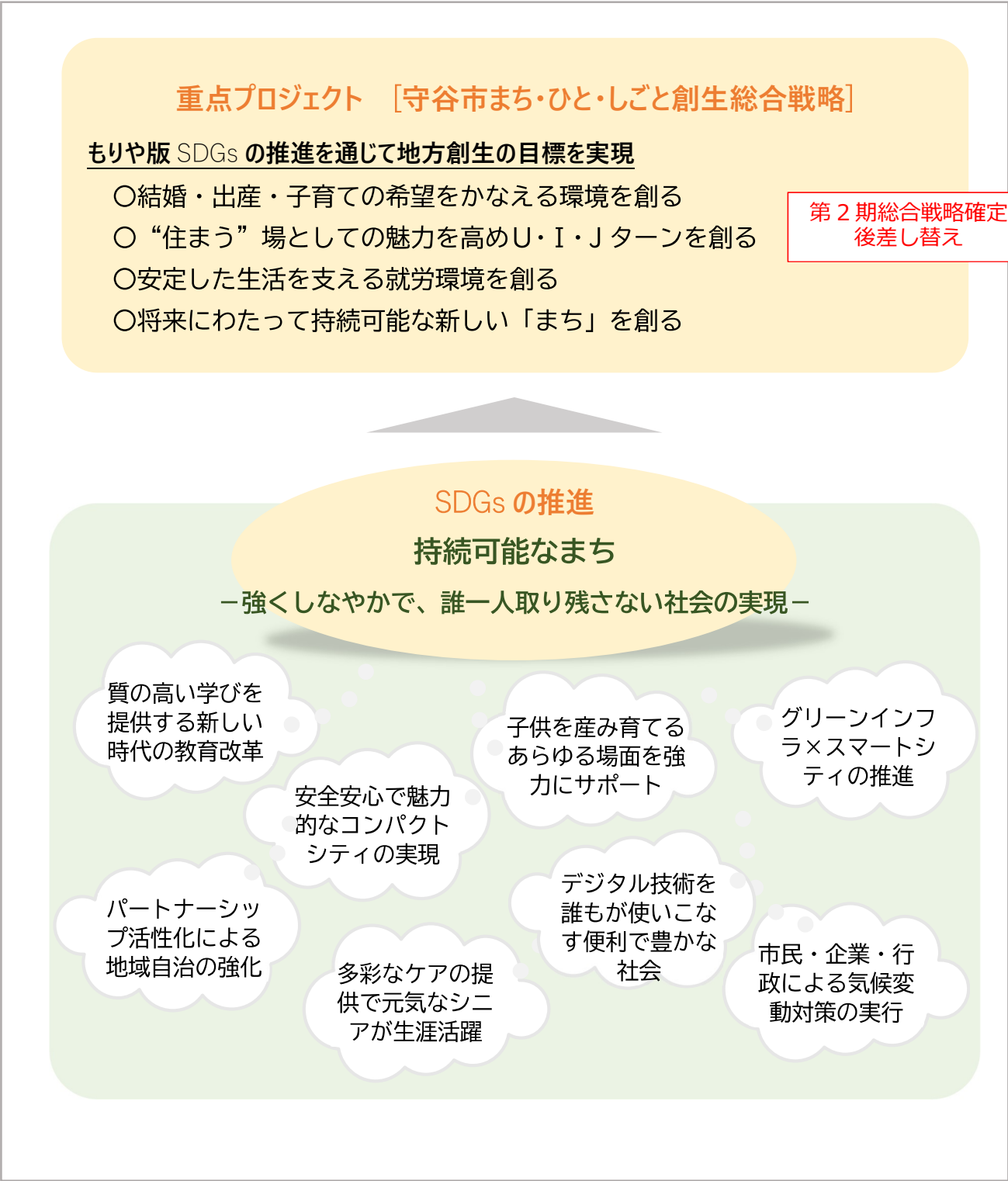
(1) 守谷市の未来像を実現するための3つの柱と基本方針

“ひとが主役”の守谷市の未来像は、下に示す3つの柱とその基本方針のもとに各種施策を展開することで、具現化していきます。



(2) SDGsと総合戦略の推進（重点プロジェクト）

国際的な目標であるSDGsに向けて守谷市の特性を踏まえた取組を統合的に進めていくことで、本計画の重点プロジェクトである総合戦略の目標の実現につながります。



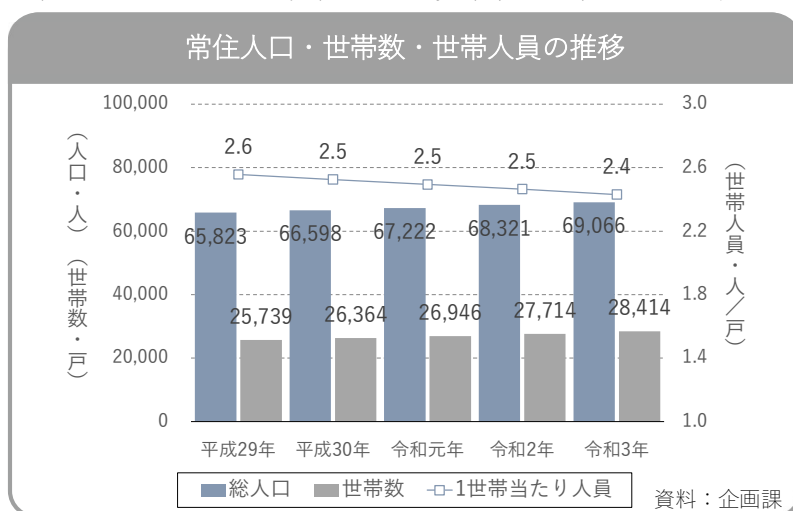
5 将来指標

1 将来人口の設定

守谷市の未来像「仮）守谷がわたしのパワースポット」を実現し将来にわたって自立した持続可能なまちであるためには、若者の流出の抑制や、「住まう場」として選ばれるための戦略的な施策を展開することで、令和13年時点での人口を●●人と設定します。

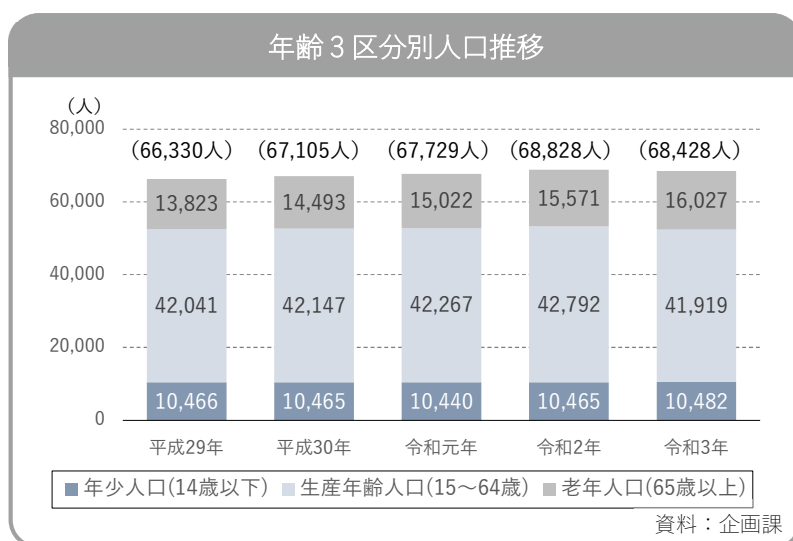
(1) 人口と世帯

守谷市の人口は、令和3年4月1日現在、6.9万人であり、世帯数は2.8万世帯です。1世帯当たりの世帯人員は2.4人と減少傾向です。令和13年時点では、・・・。



(2) 年齢構成

守谷市における年齢構成は、令和3年4月1日現在、年少人口（14歳以下）1.0万人、生産年齢人口（15～64歳）4.2万人、老年人口（65歳以上）1.6万人です。令和13年時点では、年少人口割合●●%、生産人口割合●●%と・・・。

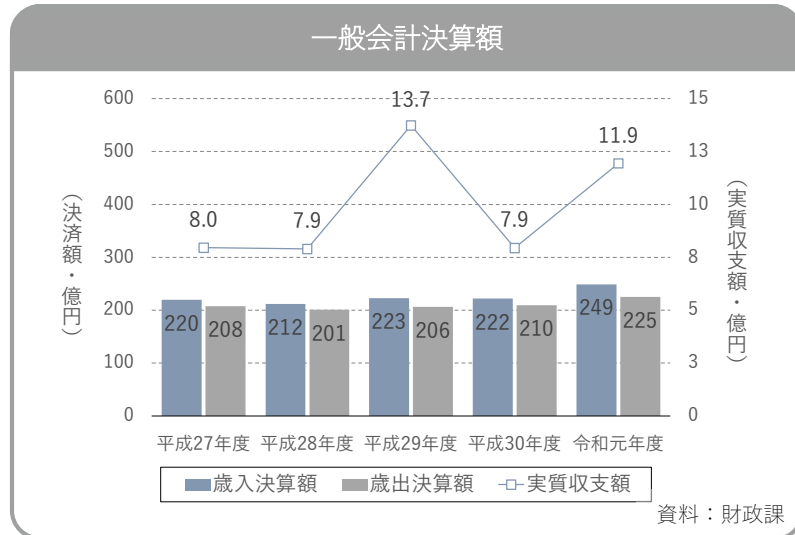


2 財政の見通し

令和13年までの財政見通しについて、将来人口を踏まえて推計しました。

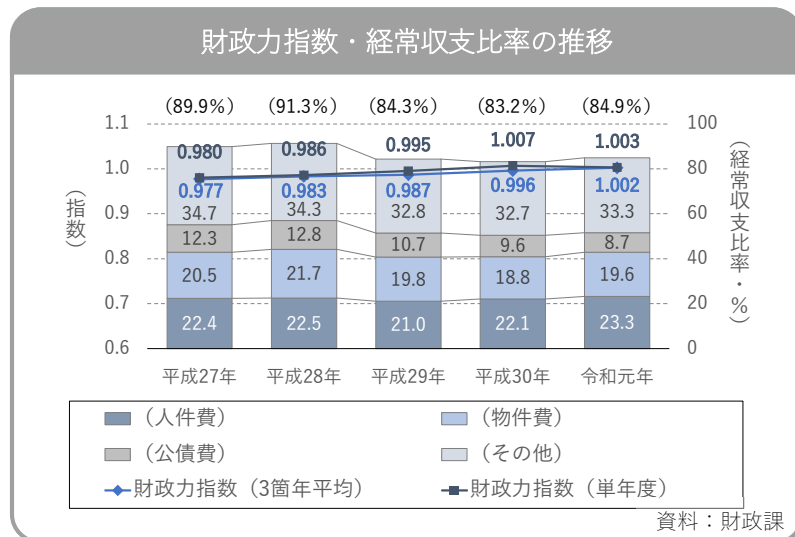
(1) 決算額の推移

各年度の歳入歳出決算額については、歳入の増加傾向であり、令和元年度の実質収支額は11.9億円です。



(2) 財政力指数等の推移

財政力指数は、人口の増加等に伴う税収増により、確実に向上してきました。



(3) 歳入・歳出の見通し

(財政見通しの集計後、掲載)

人口見通しと連動させ、作成

6 土地利用

(1) 土地利用の基本方針

守谷市の市域面積は 3,571ha（35.71 k m²）で、市街化区域面積が 985ha（27.6%）、市街化調整区域が 2,586ha（72.4%）となっており、首都圏近郊にありながら自然豊かな環境を維持してきました。

将来に向けた土地利用については、水と緑の環境と豊かな歴史風土を残し活用するとともに、進行する市街化と近い将来に訪れる高齢化に対応しつつ均衡のとれた適正な配置となるよう、総合的かつ計画的に誘導していきます。

(2) 土地利用の類型と配置方針

土地利用の基本方針に基づき、将来の土地利用を下のように区分して配置します。

▼土地利用の区分

- | | | |
|-----------------------|-------------|------------|
| ○計画開発住居系エリア | ○一般住居系エリア | ○中心商業業務エリア |
| ○近隣サービス商業エリア | ○沿道複合市街地エリア | ○工業・流通系エリア |
| ○複合用途系エリア | ○集落環境保全エリア | ○農用地エリア |
| ○大規模公園・緑地等 | ○一団の緑地保全ゾーン | ○河川及び調節池 |
| ○農業環境と調和する複合産業土地利用ゾーン | | |

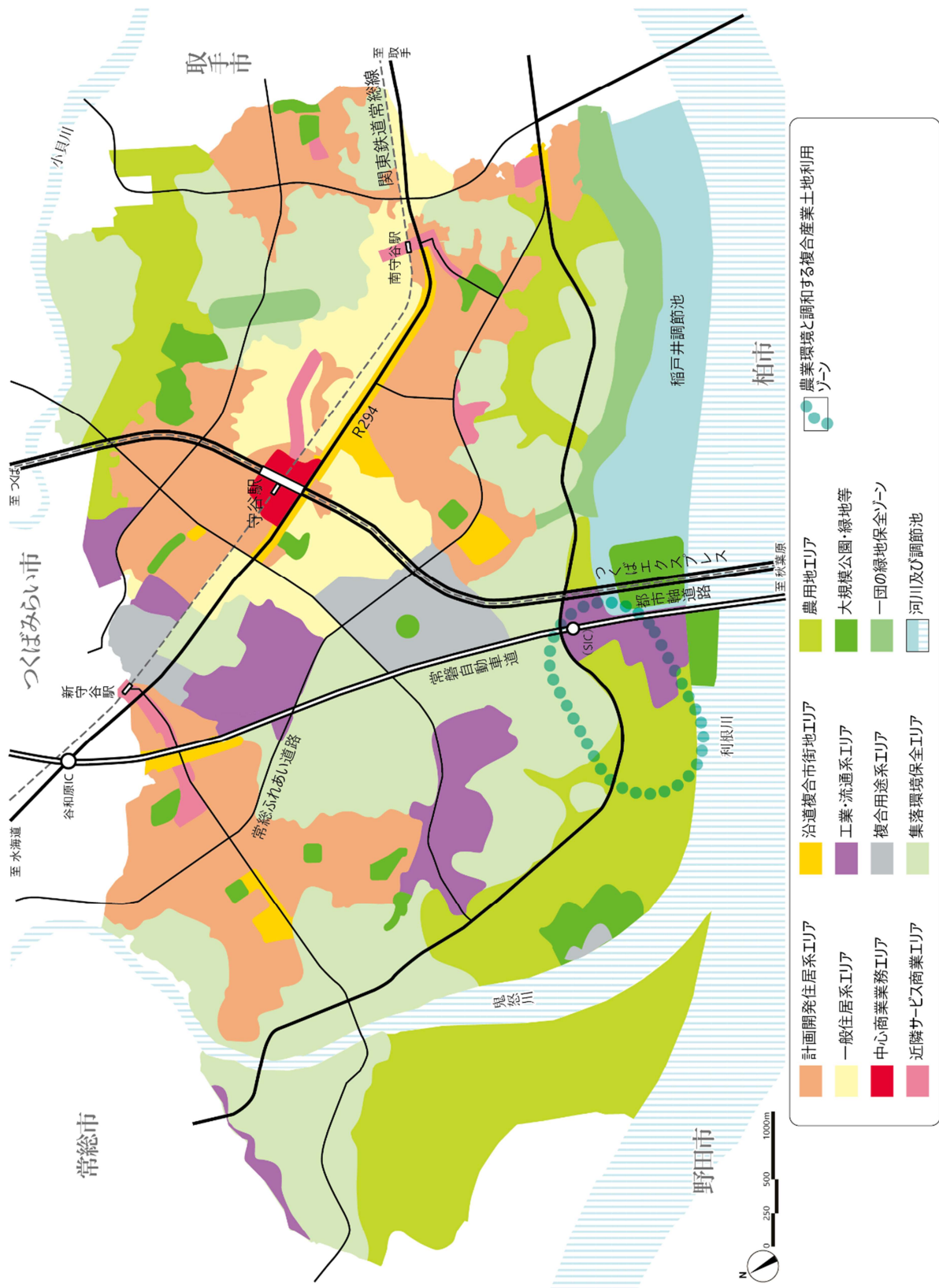


図 3-1 土地利用構想図